

PLANET PYRAMID

2000年後のピラミッド | 柴川敏之展

未来の王様は誰だ!?



SHIBAKAWA Toshiyuki

柴川敏之展

SHIBAKAWA Toshiyuki Exhibition

2000年後のピラミッド

PLANET PYRAMID

日時 | 2014年12月23日(火・祝) -

2015年2月15日(日)

会場 | 九州芸文館

主催 | ちくごアートファーム計画実行委員会

共催 | 西日本新聞社、九州芸文館美術展実行委員会

助成 | 公益財団法人福岡文化財団

企画 | 花田伸一 (キュレーター)

 文化庁「平成26年度 地域と共創した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」



目次

- 0007 ごあいさつ ― 未来の王様は誰だ!?
- 0008 世界遺産としての「2000年後のピラミッド」| 柴川敏之

0013 プロジェクト概要

- 0014 『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』について
- 0015 『ちくごアートファーム計画』について
- 0016 九州芸文館について
- 0017 筑後エリアについて
- 0018 『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』ができるまで
- 0019 タイムドキュメント
- 0020 展示配置図

0023 会場風景

- 0024 2000年後の考古学者の間
- 0028 2000年後の化石の間
- 0042 2000年後のお宝の間
- 0064 2000年後の闇の間
- 0070 2000年後の黄金の間
- 0084 2000年後の食の間 ― カフェレストラン ななつ星
- 0090 地域連携プログラム
- 0091 サテライト展示1 ― 近松岩吉商店 室岡店
- 0092 サテライト展示2 ― 赤坂蛤本舗
- 0093 サテライト展示3 ― うなぎの寝床
- 0094 コラボレーション企画 ― 福岡県立美術館
- 0095 同時期開催展 ― 北九州市立美術館

0097 関連イベント

- 0099 トークイベント
- 0099 クロストーク 「八女の古墳群と芸術文化」
- 0100 アーティストトーク 「2000年後のピラミッドへようこそ!」
- 0100 学芸員による 「2000年後のピラミッドトーク～未来の王様は誰だ!？」
- 0101 ギャラリートーク1 「41世紀と21世紀の考古学者によるトーク」
- 0102 ギャラリートーク2 「みんなのお宝トーク～2000年後のお宝」
- 0103 参加型イベント
- 0103 プレ・ワークショップ1 「2000年後の筑後を発掘しよう!」
- 0104 プレ・ワークショップ2 「2000年後の筑後を発掘しよう!」
- 0105 ワークショップ 「2000年後の化石を作ろう!」
- 0106 ミニ・ワークショップ 「2000年後の絵手紙☆プロジェクト～2000年後の人へ絵手紙を送ろう!」
- 0107 参加型イベント 「2000年後の王様プロジェクト～王様気分で見よう!」

0108 テキスト、資料

- 0109 2000年後から見る福岡県立美術館 コレクション&展覧会の総括 | 西本匡伸
- 0110 現代美術の世界観と考古学の関係性 | 大塚恵治
- 0111 ちくごのピラミッドに迷い込んで | 臼井敬太郎
- 0112 古墳で現代アート | 宮本初音
- 0113 美味しいストーリーにはご用心 | 鬼本佳代子
- 0114 時を渡る舟 ― 「PLANET PYRAMID」の時空間 | 中村共子
- 0115 風景をつくる画家 | 山下里加

- 0116 2000年後の権力と芸術の狂宴 | 花田伸一

- 0122 出品目録
- 0126 柴川敏之に関する資料
- 0130 『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』の活動記録
- 0134 謝辞

ごあいさつ ― 未来の王様は誰だ!?

このたび九州芸文館では、古代文化を擁する福岡県筑後エリアの風土性をふまえ、「2000年後に発掘された現代社会」をテーマに制作活動を行う美術家・柴川敏之（1966-）の展覧会を開催いたしました。隈研吾設計による九州芸文館を「2000年後のピラミッド」に見立て、2000年後に発掘された携帯電話やパソコン等の化石作品のほか、地域の皆さんと共にワークショップで制作した作品、地域のお宝、皆さんのお宝等も交えながら展示していきました。

太古の古墳やピラミッドは権力と美とが分かちがたく結びついて生まれた人類最初の結晶ともいえるでしょう。その背景には数多くの名も無き民による労働がありました。翻って私たちの社会の権力と美はどのようなものでしょうか、また2000年後にはどうあるべきでしょうか。私たちの日常が化石化した2000年後の世界。現代が凝縮した未来のピラミッドの中で人類のお宝を探る時間旅行を楽しみながら、権力と美の源泉に触れていただきたいと思います。

本展は九州芸文館を拠点に福岡県筑後エリアの地域資源に注目しながら地域の皆さんと一緒に展覧会を作り上げるプロジェクト『ちくごアートファーム計画～筑後の風土と芸術文化』の一環として開催いたしました。2014年6月のキックオフ・シンポジウム『筑後の大地と創造力』に始まり、8月、10月にクロストークを重ね、地域資源を掘り起こしながら展覧会の準備を進めてまいりました。本展を通じて筑後エリアの魅力を再発見していただければ幸いです。

最後に本展の開催にあたりご協力いただきました関係各位に心よりお礼申し上げます。

『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』について

福岡県では筑後エリアの芸術文化交流施設、九州芸文館を拠点に2014年度より3年計画のアート・プロジェクト『ちくごアートファーム計画』に取り組みはじめた。現代アートを通じて筑後エリアの地域資源を再発見しながら、地域の人材交流および人材育成を図るものである。その初年度プログラムとして後述のとおり公開シンポジウム、連続クロストークを開催し、そこでの成果は市民参加型展覧会『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』という形で結実した。

本展では岩戸山古墳に代表される筑後エリアの古代文化に着目し、2000年後の未来から現代社会を見つめなおすべく化石をテーマに制作を続ける美術家・柴川敏之（1966年生/岡山市在住）を招聘した。柴川の見立てにより、独特なデザインの九州芸文館の建築空間が『2000年後のピラミッド』に見立てられ、筑後エリアの地域資源も積極的に取り入れながら展示構成がなされた。その結果、洋の東西を超えて古代文化が交錯する場、そして時代の壁を超え、古代から2000年後まで種々の時間が交錯する場が生み出された。

市民参加型展覧会の準備にあたっては、福岡県の県民文化スポーツ課を事務局とし、おなじく福岡県の社会教育課および福岡県立美術館、そして九州芸文館の立地する福岡県筑後市の商工観光課、同市教育委員会の社会教育課、岩戸山古墳を擁する福岡県八女市の観光振興課、同市教育委員会の文化課、筑後商工会議所、九州芸文館の指定管理者であるNPO法人芸術の森デザイン会議および「ちくごJR芸術の郷」事業団によって構成される実行委員会が組織された。

本展の実現にあたっては同委員会のネットワークを通じ、岩戸山歴史資料館、近松若吉商店、福岡県立筑後特別支援学校、八女民俗資料館、八女伝統工芸館、香蘭女子短期大学、赤坂館本舗、うなぎの寝床、羽犬塚商店街協同組合、福岡県立八女工業高等学校、CRAZY AUTO 等各方面的協力を得た。

市民参加型展覧会：7つの市民参加

1. プレイベント（クロストーク）で地域のお宝や拓本の材料を市民と協議！
2. 「黄金の間」の壁画を特別支援学校の生徒さんや市民の皆さんと制作！
3. 「黄金の間」のトロフィー&オブジェを大募集。会期中も続々と増殖！
4. 市民による「2000年後の絵手紙」が会期中、増殖！
5. 香蘭女子短期大学ファッション学科の学生さんが特別関連衣装を制作！
6. 会期中、サテライト展として筑後地区の複数箇所に柴川作品を展示！
7. そしてピラミッドの核心部分で明らかになる、7つ目の市民参加の形とは？



本展のポスター・フライヤー
本展の広報物や配布物は、本展のコンセプトやメッセージを表したキャッチコピーを盛り込んでデザインされている。
(デザイン:白水高広)

『ちくごアートファーム計画』について

九州芸文館を拠点に筑後エリアの地域資源に注目しながら「筑後の風土と芸術文化」を考え、実践していくためのアート・プロジェクト。

皮切りとして、キックオフ・シンポジウムを実施。「里山」「自然」「食」等筑後エリアに豊富にある地域資源に目を向け、これらが芸術文化を育む肥沃な土壌たりうることを示すべく、藻谷浩介氏による基調講演、筑後地域で活躍する産業・文化関係者を交えたパネルディスカッションを行った。

連続クロストーク第1回では“過去”をテーマに大塚恵治氏が筑後地域に広がる八女古墳群を紹介、柴川敏之は自身の作品背景である現代への危機意識を語った。

第2回は“現在”がテーマ。白水高広氏は自身が営むアンテナショップの取り組み等を紹介、牛島智子氏は我々の身近にある蠟燭を例に、視点を変えることで真逆の価値となる、ものの価値の曖昧さを語った。

第3回では“未来”をテーマに、牛島光太郎氏が個人々の日常の記憶をテーマに続ける制作活動を紹介。梅木隆氏は宅老所の活動を通し、人から人へと伝わっていく記憶について語った。

2014年6月29日（日）

- シンポジウム：『筑後の大地と創造力』
- 基調講演：「里山資本主義における芸術文化」
藻谷浩介（地域エコノミスト/日本総合研究所調査部主席研究員）
- パネルディスカッション：「筑後の大地と創造力」
藻谷浩介×小森耕太（「山村塾」事務局長）×平川武（「九州ちくご元気計画」[筑後地域雇用創造協議会] 実践支援員）×津留誠一（彫刻家/九州芸文館館長）

2014年8月30日（土）

- 連続クロストーク『ちくごアートひろば』：第1回「八女の古墳群と芸術文化」
柴川敏之（美術家）×大塚恵治（八女市教育委員会文化課）

2014年10月18日（土）

- 連続クロストーク『ちくごアートひろば』：第2回「筑後の地域資源とアート」
牛島智子（美術家）×白水高広（うなぎの寝床代表）

2014年12月23日（火・祝）

- 連続クロストーク『ちくごアートひろば』：第3回「地域の記憶を紡ぎだす」
牛島光太郎（美術家）×梅木隆（美術家/宅老所はるさん家代表）

2014年12月23日（火・祝）～2015年2月23日（日）

- 市民参加型展覧会：『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』
柴川敏之（美術家）



『ちくごアートファーム計画』フライヤー
(デザイン:白水高広)



藻谷浩介氏基調講演「里山資本主義における芸術文化」

ちくごアートファーム計画：

- 2014年度/筑後の風土と芸術文化
→『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』
- 2015年度/筑後の環境と身体性
→『カラダに効くアート』
<牛嶋均・牛島智子・坂井存展>
- 2016年度/筑後の自然と創造力
→『アートで地球と遊ぶ 木村崇人展』

2000年後の考古学者の間

会場入口には、スフィンクスに見立てた「2000年後に発掘された招き猫の化石」を展示。左手を動かして来館者を迎える。壁には「2000年後に発掘された世界地図の化石」を展示。日本や九州はどこへ。「2000年後の考古学者のミニ机」には、以下の3つのイメージが重ねられている。

- 1: 2000年後の考古学者が、出土品のトロフィーを修復したり、出土したものを分類整理している様子。
- 2: 柴川のアトリエのミニ机を再現。これらの化石作品は絵画的技法*で制作されている。

3: 机の上には、「2000年後のピラミッド」としての九州芸文館とJR筑後船小屋駅周辺の遺跡。

*制作方法は、身近な素材（石や砂、ホンペイの溶岩、広島の被爆建物のレンガ、金属のさび、貝殻等）を粉状にして顔料を作り、絵画で使われるメディウム（にかわ、卵黄、油、ロウ、アクリル樹脂等）と混ぜ合わせて絵具を作っている。この絵具を、キャンバスに見立てた身近なモノ（ヤスリをかけたもの）を支持体として、そこに一層を100年と考え20層の絵具を塗り重ねて、2000年後の化石（出土品）のイメージを表現していく。



2000年後の化石の間

2000年後の世界をイメージし、柴川作品（2000年後に発掘された乗り物や日用品の化石等）と船を中心に構成。この船は、筑後地域の川船^{*1}で、中には柴川作品が敷き詰められている。

2000年後に発掘されたこの船が、宇宙空間のような砂漠の大地または水面に出現。キューピー人形の化石が船頭として何かに向けて進んでいる。同時にこの空間は、船小屋でもある。^{*2} この船の進

む姿や方向は、筑後地域やこの国の行方を暗示しているかのようである。

^{*1} 九州芸文館の側を流れる矢部川でかつて実際に使用されていたもの（木造船、八女民俗資料館蔵）。

^{*2} 九州芸文館に隣接する「筑後船小屋」という駅名の由来は、近くの矢部川一帯に川船を格納する小屋がたくさんあったため。





筑後地域の川船（木造船、八女民俗資料館蔵）
の中に、「2000年後に発掘された現代の
品々」を並べたインスタレーション作品。
船内にはたくさんの柴川作品が敷き詰められ
ている。それらは船頭の所持品でもあり、操
縦席（前方2段目）でもある。船内を俯瞰す

ると筑後の町並みが現れ、津波（前方1段目の
蚊取り線香等）で人々が巻き込まれ、筑後の
町並み（前方2～4段目）を襲っている。
この船の進む方向は、これからの筑後の町や
この国の行方を暗示しているかのようである。

2000年後のお宝の間

2000年後のピラミッド内の一室として、筑後地域のお宝を収蔵する「2000年後の博物館」をイメージして構成。福岡県立美術館所蔵の筑後ゆかりの画家や彫刻家の作品、岩戸山古墳から出土した考古資料、この地域の伝統工芸（箱雛・燈籠人形、石灯籠、赤坂人形、夫婦えびす等）を柴川作品と混在させてコラボレーション展示した。





1つ目のガラスケースには、装身具や食器類を中心に八女古墳群や立山山古墳群から出土した鉄製品以外の考古資料26点（岩戸山歴史資料館蔵）と柴川作品26点とを混在させてコラボレーション展示した。

中心に置いた埴輪を「2000年後のピラミッド」で発掘された王（人々）と見立てて、その人物が使用していたモノを並べて展示した。例えば、出土品の矢じりを歯（あるいは義歯）に見立てて、

2000年後に発掘された入れ歯や歯ブラシの化石と共に展示。その他、以下の出土品と柴川作品とを合わせて展示した。

縄文時代後期の石鏡、弥生時代後期のミニチュア土器・壺形土器、古墳時代前期の勾玉・ガラス玉、古墳時代後期の人物埴輪（入墨をした顔）・平縁四乳文鏡・碧玉製 粟玉・銅地銀張耳環・銅製紋具



2000年後の黄金の間

エジプトのピラミッドは、王権社会のもと一人の権力者を祀っており、頂点が一つである。それに対し、九州芸文館の建築デザインでは複数の頂点を擁している（参照p.16）。「2000年後に発掘された現代のピラミッド（＝九州芸文館）」では、王（主権者）とは市民であり、民主主義社会のもと多くの市民を祀っているという設定で、多くのトロフィーを墓に見立てて展示した。これらの上部にあるフィギュアは、死者の生前の個性を象徴している。

これらの金色のトロフィーや金色のオブジェは会期中・会期中に市民から募集したもの。壁面の作品は筑後地域の赤い装飾古墳をイメージしながら、福岡県立筑後特別支援学校中学部1・2年生と市民それぞれがワークショップで制作したもの（pp.103～104）で、現代の身近なモノが写し取られ部分的に筑後ゆかりのモノ（筑後市ご当地ナンバープレート、ブリチストン製タイヤ、大川組子等）の図像が含まれている。

ここは現代の民主主義社会の象徴を奉る場所なのである。



コラボレーション企画

福岡県立美術館 | 『開館30周年記念 | コレクション展連続企画 2014-15 第1弾 特集「福岡の近代洋画」』



福岡の近代洋画が並ぶ空間に《2000年後に発掘された絵画の化石》を展示。筑後ゆかりの青木繁や坂本繁二郎の作品も、額縁ごと化石化して出土した場合、2000年後の世界では祭具やお盆として展示されているかもしれない。(p.44～47参照)



絵画の中に《2000年後に発掘されたキュービー人形の化石》を展示。2000年後には彫刻や仏像として展示されているかもしれない。



展示会入口では《2000年後に発掘された招き猫の化石》がお出迎え。来館者とのコミュニケーションツールとしても機能した。

本展は、福岡県立美術館のコレクションから「福岡の近代洋画」を紹介する展示会。会場内に3点の柴川作品を特別出品することで、『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』とコラボレーションした。本展は、額縁に入った油彩画や水彩画等の平面作品のみで展示空間を構成され、その中に差し挟まれた「遺物 (= 異物)」としての柴川作品は、多くの観衆の目を惹きつけていた。

会期：2014年11月29日(土) - 2015年2月1日(日)

出品作家：青木繁、梅原龍三郎、坂本繁二郎、高島野十郎ほか、柴川敏之(特別出品)



同時開催催展

北九州市立美術館 | 『開館40周年記念 | アート・オブ・メモリー 記憶をめぐる4つのレシビ』



《PLANET DESK (2000年後の考古学者の机～2000年後の北九州)》では、北九州市の町並みをリサーチし、机の上に2000年後の北九州市の町並み(小倉駅、リバーウォーク、若戸大橋、北九州市立美術館、スペースワールド、製鉄所等)を出現させた。(p.24～25参照)



入口では《2000年後に発掘された招き猫の化石》がお出迎え。



「2000年後の博物館」をイメージしたガラスケースの展示。



「2000年後の美術館」をイメージした展示。北九州市立美術館のコレクション(ドガ、マイヨール等)を想定した作品も展示。

本展は、「時代の記憶」「風景の記憶」「人の記憶」「自然の記憶」という4つのキーワードのもとに、4組の現代アーティストを紹介した展示会。柴川は、「時代の記憶」を担当し、『2000年後の博物館と美術館』をテーマとした。ガラスケースの中には、2000年後の出土品を電化系・食品系・製品系・玩具系に分けて展示。会場には《2000年後に発掘されたメトロノームの化石》の音が時を刻んでいた。

会期：2015年1月4日(日) - 2月22日(日)

出品作家：柴川敏之、クワクボリョウタ、北上伸江、plaplast (プラブラックス)

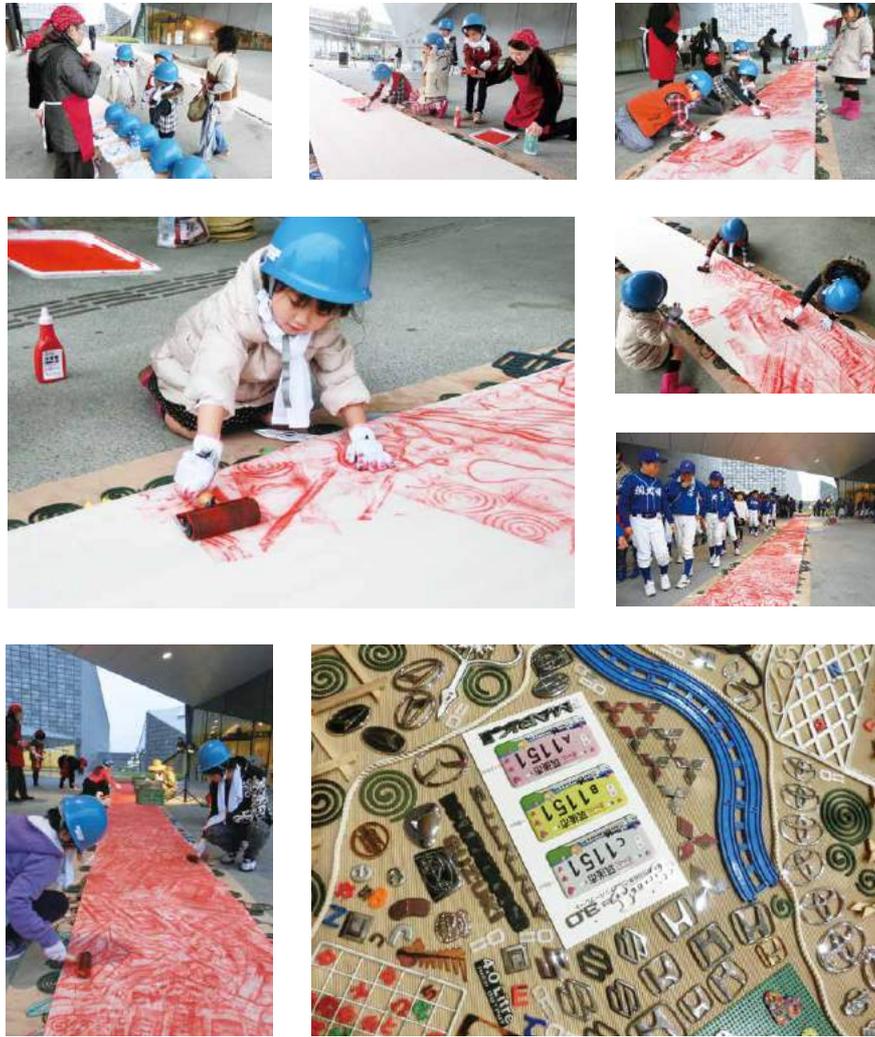


「2000年後の筑後を発掘しよう！」

2014年11月30日(日) 13:00-16:00の随時(1回10分程度)

九州芸文館 エントランス広場・多目的広場

参加費：無料(予約不要) | 参加者：一般(幼児~大人) 30名 | 講師：柴川敏之 | 運営・制作補助：九州芸文館スタッフ4名



プレ・ワークショップ1とほぼ同じ流れで、幼児から大人まで参加した。来た人から順番に個別に実施し、参加者は受付でヘルメット・軍手・タオルを身につけて「2000年後の考古学者」に変身！ 未来のスコップに見立てたローラーを転がし、柴川といっしょに「2000年後のお宝」を発掘した。

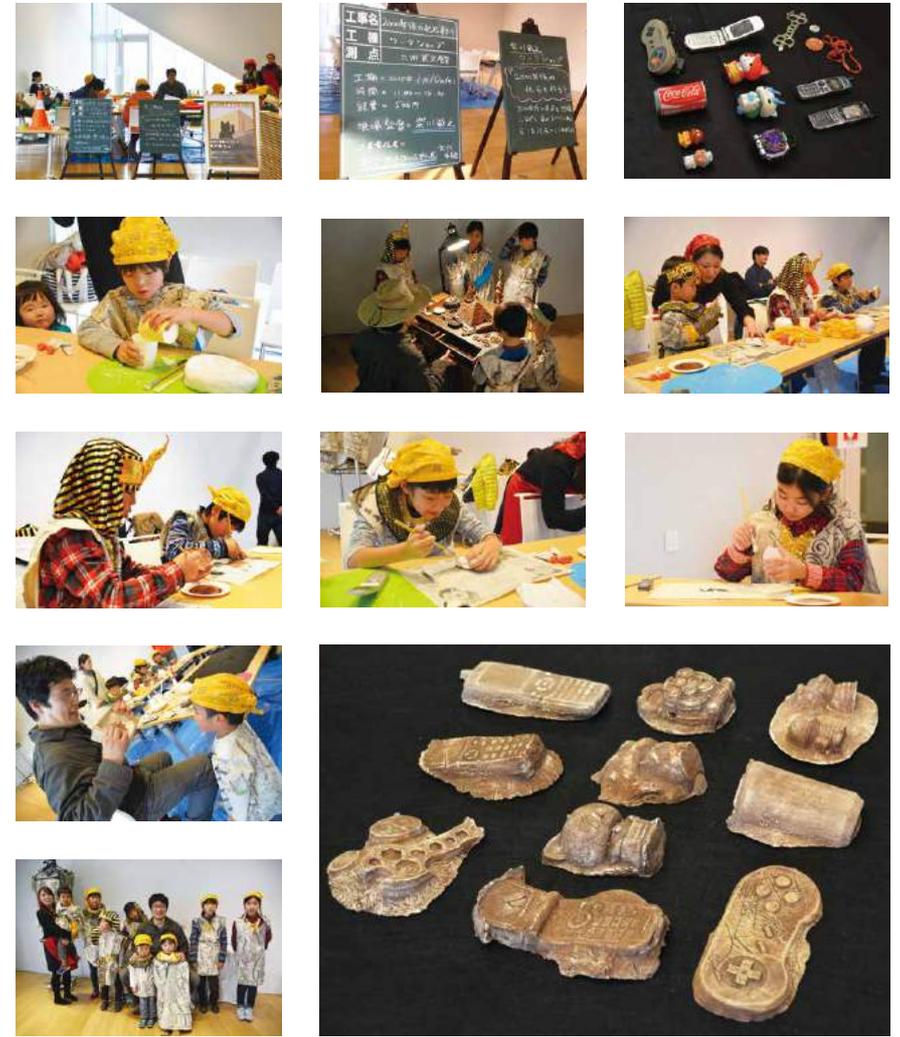
身近なモノや筑後ゆかりのモノ(筑後のナンバープレート、大川の組子細工、久留米のブリヂストンタイヤ等)の形をローラーで写し取り、遺跡のような拓本を制作した。完成した作品は、展示会場の「2000年後の黄金の間」の壁面に展示した。また、「2000年後の食の間」のテーブルクロスとしても使用した。

「2000年後の化石を作ろう！」

2015年1月10日(土) 11:00-14:30

九州芸文館 エントランスギャラリー

参加費：500円(要予約) | 参加者：一般(幼児~大人) 10名 | 講師：柴川敏之 | 運営・制作補助：九州芸文館スタッフ3名



2000年後の未来を想像しながら、身近なモノ(携帯電話、玩具、文房具等)を化石にした。小学生を中心に親子も参加。軽量粘土に自分の好きなモノを押し付けて型を作り、そこへ砂と絵具を混ぜた特殊な石膏を流し込んだ。乾燥時間を利用して柴川と本展を鑑賞。その後、粘土をはずすと「白い化石」が

できあがった。その表面を大きなネジ等で傷つけたり欠けさせたりした後に茶系の絵具を薄く塗り、乾燥後に布や紙やすりで削ると完成。最後に互いの作品を鑑賞しながら写真撮影。参加者は、自分の好きなモノが化石に近づいていく様子を楽しんでいた。



柴川敏之の制作風景 (撮影: 納所和正)

- 1966 アルベルト・ジャコメッティの命日 (1966.1.11) に大阪府で生まれる | 現在、岡山市在住、就実短期大学教授
- 1991 広島大学大学院修了
- 1993 草戸千軒町遺跡 (広島県福山市) と出会い「2000年後に発掘された現代社会」をテーマに制作を開始
- 1997 文部省在外研究員としてイタリアに滞在し、フレスコ画・ポンペイ遺跡等を調査研究 (ミラノ国立ブレラ美術学校)
- 2006 エネルギー美術賞受賞 / 財団法人エネルギー文化・スポーツ財団

主な個展・プロジェクト

- 2015 PLANET MUSEUM: 柴川敏之展 | 2000年後の美術館 / Taipei World Trade Center (台湾)* [ART TAIPEI 2015]
- 2014 PLANET PYRAMID: 柴川敏之展 | 2000年後のピラミッド / 九州芸文館 (福岡)* [ちくごアートファーム計画]
- 2013 PLANET TACTILE: 柴川敏之展 | 2000年後の今に触れる☆プロジェクト / 川崎市市民ミュージアム (神奈川)*
- 2013 PLANET SCHOOL: 柴川敏之展 × てんとうむしプロジェクト | 2000年後の小学校 / 京都芸術センター (京都)*
- 2012 PLANET SCROLL: 柴川敏之展 | 2000年後の化石絵巻 / 秋吉台国際芸術村 (山口)*
- 2010 大原美術館の80歳をお祝いしよう! プロジェクト / 大原美術館 (岡山)*
- 2010 PLANET ANTIQUES: 2000年後の骨董市 | 柴川敏之展 / YOD Gallery (大阪)*
- 2009 PLANET WALL: 柴川敏之展 / a piece of space APS (東京)*
- 2008 PLANET SANNAI: 柴川敏之展 | 2000年後の未来遺跡 | 三内まるごとミュージアム / 青森県立美術館、三内丸山遺跡 (青森)*
- 2008 PLANET MUSEUM ☆ PROJECT: 柴川敏之展 | 2000年後の美術館 ☆ プロジェクト / 高知県立美術館、他17施設 (高知)*
- 2007 TRAVELER: 縄文土器と美術家 柴川敏之の世界 / 京都造形芸術大学芸術館 (京都)*
- 2007 PLANET CAPSULE: 柴川敏之展 | 2000年後のタイムカプセル / 鶴岡アートフォーラム (山形)
- 2006 PLANET STREET: 柴川敏之展 | 2000年後に発掘された〈駅〜まち〜美術館〉 / 佐倉市立美術館、柴町、京成佐倉駅 (千葉)
- 2006 時のかけら: 柴川敏之展 | 2000年後のミュージアム〜縄文と現代の行方 / 辰野美術館 (長野)
- 2006 PLANET DRAGON: 龍の道: 2000年後の龍の行方 / 千光寺道、尾道市商店街、尾道市内小学校他 (広島)
- 2006 PLANET PIECES: 柴川敏之展 / a piece of space APS、巷房階段下他 (東京)*
- 2005 未来美術館へ行こう! 柴川敏之展: PLANET MUSEUM OF ART/TWO ROOMS / 奈良町現代美術館 (岡山)*
- 2004 アート・ネットワーク 柴川敏之展: PLANET MUSEUM OF ART/ONE ROOM / ふくやま美術館 (広島)*
- 2003 2000年後の冒険ミュージアム “川に埋もれた伝説の町〜草戸千軒” と “現代の美術” 展 / 広島県立歴史博物館 (広島)*
- 2001 PLANET CIRCLE: 今日の作家シリーズ 柴川敏之展 / 大阪府立現代美術センター (大阪)*
- 1999 PLANET GARDEN: 柴川敏之展 | 惑星の箱庭 / しぶや美術館 (広島)
- 1999 41世紀からのメッセージ: 美術の時間 vol.6 柴川敏之展 / デビットホール (岡山)

主なグループ展

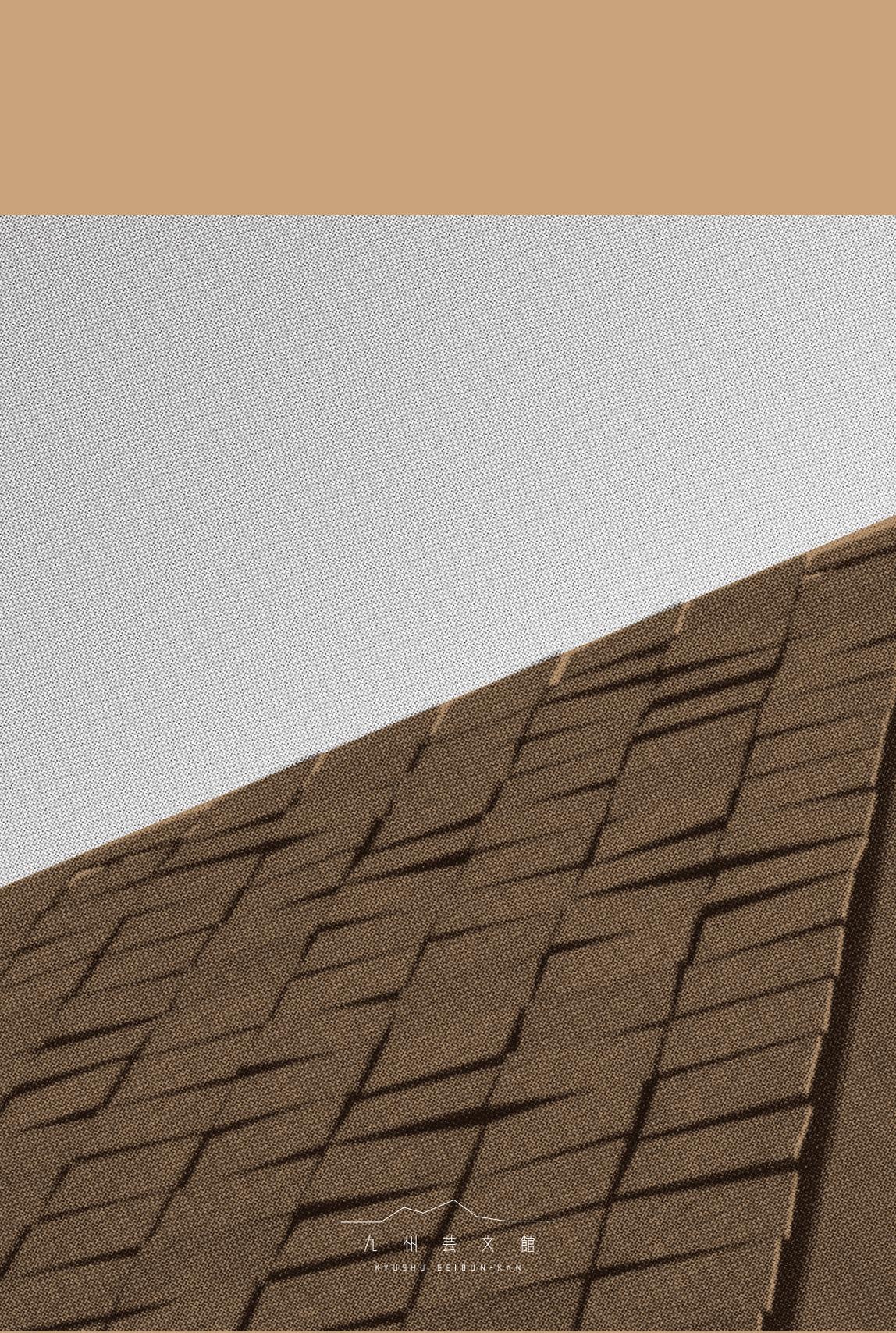
- 2016 岡崎和郎 × 柴川敏之 | 未来の化石・化石の未来 / 倉敷市立美術館 (岡山) [「発掘された過去・現在・未来」展]
- 2016 美作三湯芸術温度 | 2000年後の温泉ミュージアム / 湯郷温泉 (和モダンなお宿かつらぎ、DOT CAFE) (岡山)*
- 2016 Bazaar Art Jakarta 2016 / The Ritz-Carlton, Pacific Place (ジャカルタ)
- 2015 ART TAIPEI 2015 台北国際藝術博覧会 / Taipei World Trade Center (台湾) (同: 2014)
- 2015 ABOUT ART EXPO MALAYSIA PLUS / MECC (マレーシア)
- 2015 ART OSAKA 2012 / ホテルグランヴィア大阪 (大阪) (同: 2014, 2013, 2012, 2011, 2010)
- 2015 アート・オブ・メモリー 記憶をめぐる4つのレシビ / 北九州市立美術館 (福岡)*
- 2014 NEW CITY ART FAIR / hpgrp GALLERY NEW YORK (アメリカ) (同: 2012)
- 2014 Affordable Art Fair Brussels / Tour & Taxis (ベルギー)
- 2014 Collection Gilles Balmet / ÉSAD de Grenoble (フランス)*
- 2013 岡部昌生・柴川敏之展〜未来の考古学 / ギャラリーてんくスクエア (広島)* [アート・アーチ・ひろしま 2013]
- 2013 ようこそ鞆へ! 遊ぼうよパラダイス / 鞆の津ミュージアム (広島)*
- 2012 始発電車を待ちながら 東京駅と鉄道をめぐる現代アート 9つの物語 / 東京ステーションギャラリー (東京)*
- 2012 岡山芸術回廊 特別展「つながる景色」 / 岡山後楽園 (岡山)*
- 2012 Spoon Art Fair / Grand Hyatt Hong Kong (香港)
- 2011 夏休み・みんなで楽しむ展覧会「いつの人? どの人? どんな人?」 / 大阪市立近代美術館 (仮称) 心齋橋展示室 (大阪)*
- 2010 ART GWANGJU 2010 / KDJ Convention Center (韓国)
- 2009 SUMO AURA (相撲オーラ) 展 / 十和田市現代美術館 (青森)
- 2007 おもちゃの今〜未来展 藤浩志と柴川敏之 / 篠山チルドレンズミュージアム、歴史美術館、丹波古陶館他 (兵庫)
- 2006 TAMA VIVANT 2006「今、リズムが重なる」 / 多摩美術大学 (東京、みなとみらい駅 (横浜))*
- 2006 Art in 福寿会館 / 福寿会館 (広島)* [ふくやま美術館企画]
- 2006 さわって楽しむ現代美術展 / 浜田市世界子ども美術館 (島根)* | 印象派から広がる美術の世界 / 同館 (島根)*
- 2006 現代の造形-Life & Art-「酔いのかたち」 / 東広島市立美術館 (広島)*
- 2005 ARTOM60 現代美術展 被爆60年に向けて / 旧日本銀行広島支店 (広島)*
- 2005 VOCA 展「現代美術の展望-新しい平面の作家たち」 / 上野の森美術館 (東京)*
- 2002 ヒロシマアートドキュメント 2002 / 旧日本銀行広島支店 (広島)*
- 2000 龍の國・尾道〜その象徴と造形 / 尾道市立美術館 (広島)*

『2000年後のピラミッド | 柴川敏之展』

活動記録 | タイムドキュメント参照 (p.19)

<p>2013年11月21日 下見 打合せ</p>			<p>2014年8月28日 - 9月1日 打合せ 挨拶回り リサーチ クロストーク</p>
			
<p>2014年10月4日 - 6日 打合せ 挨拶回り リサーチ モノ選び</p>			
		<p>2014年11月26日 - 12月1日 打合せ 挨拶回り リサーチ モノ選び プレ・ワークショップ</p>	
			
	<p>2014年12月1日 - 20日 衣装づくり</p>		<p>2014年12月1日 - 2015年2月15日 金色のトロフィー・オブジェの募集</p>
		<p>2014年12月20日 - 22日 展覧会準備 会場設営</p>	

			<p>2014年12月23日 展覧会初日 アーティストトーク</p>
		<p>2014年12月24日 サテライト展示の展示作業</p>	
	<p>2014年12月27日、2015年1月17日、24日、31日、2月7日、14日 学会員によるギャラリートーク</p>		
<p>2015年1月10日 ワークショップ ギャラリートーク</p>			
	<p>2015年1月11日 ミニ・ワークショップ</p>		
<p>2015年2月15日 展覧会最終日 ギャラリートーク</p>		<p>2014年12月23日 - 2015年2月15日 会期中スナップ</p>	
			
		<p>2015年2月16日 - 17日 撤去作業 搬出</p>	



九州芸術館
KYUSHU BEITON-KAN